

高松平和病院ニュース

〒760-8530 高松市栗林町1-4-1 TEL.087(833)8113(代表) HPアドレス：<http://www.t-heiwa.com/>
発行責任者：高松平和病院 院長 蓮井宏樹 編集：広報委員会 発行年月日：2019年1月8日



2019年 新春のご挨拶



高松平和病院
院長 蓮井宏樹

皆様 明けましておめでとうございます。
常日頃より当院への多大なるご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

昨年は大雨や地震、台風などによる災害に見舞われた1年でした。自然災害の猛威を痛感し、被災者・被災地域の復興を願うとともに、教訓に学び大きな災害に備えた準備を地域で協力して行く必要性を改めて認識させられました。

国内の政治に目をやりますと米軍の言いなりになって沖縄県民の民意と国民の世論を無視して強行された辺野古の埋め立てや、外国人労働者の人権を軽視して強行採決された改定入管法などに見られるような、憲法が定めた民主主義や平和主義を踏みにじる政治の姿勢があります。これまで以上に憲法を守る戦いを進めていかなければなりません。

医療や介護など社会保障の面では地域医療構想、地域包括ケアの構築に向けた病院の機能別再編や地域での連携の推進など医療を取り巻く環境は激変しています。医療費削減と社会保障の改悪、超高齢化と格差や貧困が進む社会状況の変化などで医療機関の経営は厳しさが加速しています。

当院では、在宅支援機能を強化するために、昨年増床した地域包括ケア病床を在宅や介護施設から直接の入院受け入れ比率の高い地域一般入院料1に届出しました。今年は更に増床し、基幹病院や診

療所、介護事業所等との連携を更に進めて、より多くの方に利用していただければと考えています。

また、昨年はJCEP(NPO法人卒後臨床研修評価機構)を受審し、認定(4年間)を受けることができました。今後も地域医療に貢献する臨床研修病院として頑張る所存です。

自己変革できない、自己変革しない組織は衰退していくと言われます。何のために自己変革するのか？それは地域からの期待や信頼にこたえ、住民や患者の権利を守り、健康で安心して暮らしていける社会づくりに貢献するため、そしてわれわれ自身の生活を守るためにほかなりません。

厳しい情勢の中だからこそ、わたしたちは職員が団結して、いつでも、どこでも誰もが安心してかかる医療の実現を目指して平和で安心して暮らせるまちづくり、健康づくりに貢献していきたいと考えています。ひきつづき地域の方々と協同して、憲法を守り社会保障の後退を許さない運動に取り組んでいきます。今年度も皆様のご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。



高松平和病院 理念

1. 患者の権利を守り常に信頼される医療を提供します。
2. 健康づくり、明るく安心して暮らせるまちづくりに貢献します。
3. 平和と医療、福祉を守ります。

地域連携懇談会を開催しました

2018年10月25日、ルポール讃岐にて「第6回高松平和病院地域連携懇談会」を開催しました。

今回のテーマは「在宅支援病院としての高松平和病院」と題し、内科部長・原田真吾医師より「地域を支える医療・介護の連携と中小病院の役割」、リハビリテーション科部長・大西和子理学療法士より「高松平和病院リハビリテーション科における地域包括ケアの実践」の発表を行いました。



21医療機関・医療介護施設から68名(当院スタッフを含む)の方にご参加いただき、講演後は質疑応答が行われました。特に訪問リハビリテーションに関する質問が多く寄せられ、関心の高さを感じました。

高松平和病院は、地域を支える病院として医療・介護の連携を今後より一層深めていき患者様が地域の中で地域とともに新しい生活が送れるよう支援していきたいと思えます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



「JCEPを受審し、4年認定！ 質が高い医師研修と評価されました」

当院では、8月末にJCEP(=卒後臨床研修評価機構)を受審し、4年認定を受けました。これは医師研修における第三者評価で、研修病院にとって評価を受けることが努力目標とされています。

当日はサーベイヤー3名が来院され、書面調査、合同面接、指導医インタビュー、研修医インタビュー、訪問調査(院内ラウンド)により評価をされました。研修病院として患者様に分かりやすく表示をしているか、環境や設備が整っているか、研修医の身分などが明確になっているかなどを書類で確認します。研修医に対しては、受け持った患者の診療が標準的なのか、指導医と相談しながら治療しているかを聞き取ります。また、指導医や研修医に対しては研修内容や指導体制について、コメディカルに対してはどう研修



受審時に受審証を受け取りました

医を評価しているかを聞き取ります。研修指導に関わる医師、コメディカルが対応して当院の研修についてアピールしました。10月に4年とする認定証が届きました。救急医療と地域プライマリケアを重視する当院に熱意溢れた研修医が集まり、指導医、コメディカルスタッフを含めた病院全体が研修医を熱心に指導、研修する体制であると評価されました。特にサーベイヤーからは、救急から入院、在宅医療まで継続して経験できること、子どもから高齢者まで幅広い層の患者を診療できることは研修病院として素晴らしいとコメントをいただきました。

改善点もありますが、まずは目標としていた4年認定を受けることができました。今後も、地域医療に貢献する研修病院として医師養成に尽力します。

医局事務課・研修センター 末澤



年末恒例

手打ちうどん



当院の4病棟では毎年年末に手打ちの年越しうどんを食べる行事を行っています。



この行事は、6年ほど前あ

る肝硬変末期の患者様の「うどんを食べたい」という一言をきっかけに、手打ちうどんを習い、衛生面には細心の注意を払いながら粉から手打ちうどんを作ったのが始まりです。病気の影響から食事の制限のある患者様でしたが、病気も末期であることから、主治医の先生にはうどんを食べることを許可していただき、打ちたてのうどんを美味しく食べてくれました。それ以降、せっかく覚えた手打ちうどんを他の患者様にも食べてもらいたい

と、毎年の年末行事として開催するようになりました。

高齢の患者様は「小さい頃にうどん打ちをしたわ」と懐かしんで見学に来てくれたり、スタッフの指導をしてくれたりとデイルームには人が大勢集まります。普段食欲がない方も、「うどんを食べる。」と箸を持ちぺろりと1杯たいらげます。

病院生活は季節感が失われがちですが、このような行事を通して、少しでも症状を和らげて、元気になるお手伝いができればと思っています。



職場紹介

4病棟

4病棟は内科総合病棟で、地域包括ケア病床もあります。看護師38名、看護補助者6名、事務1名の計45名で、急性期から退院支援まで様々な状態の患者様を看ています。患者様一人一人がその人らしく生活を送ることができるよう看護ケアや支援をおこなっています。

当院には様々な生活背景をもつ患者様が入院しています。その中で認知症の患者様もたくさんいらっしゃいます。院内の認知症患者様を対象に週1回認知症デイケアを開催し、看護師や看護助手と一緒に作品づくりやゲームをして楽しんでいます。



院内デイケアに参加している患者様の姿をみると、作品づくりやゲームなどの共同作業を通して、患者様同士が談笑する機会が徐々に増えつつあるように思います。デイケアの時はもちろん普段の生活でも病棟内にたくさんの笑い声が聞こえて、楽しいひとときを提供できている喜びを私達も感じています。